

## 第 8 部 情報システムの企画

この第 8 部から第 13 部までは、ソフトウェアのライフサイクルの各フェーズについて議論する。具体的には、以下のようになる。

第 8 部 情報システムの企画

第 9 部 ソフトウェアの要件定義

第 10 部 ソフトウェアの設計

第 11 部 プログラムの作成

第 12 部 ソフトウェアのテスト

第 13 部 ソフトウェアの保守

第 9 部から第 13 部までの標題には、第 11 部を除いて「ソフトウェア」という言葉を付けている。しかし第 8 部の標題の言葉は、「情報システム」とした。これは、「企業などが必要とするのは実際に稼働する情報システムであって、その情報システムの一部であるソフトウェアだけではない」ということによる。つまりここで「企画作業」の対象になるものは、「ハードウェアやネットワークも包含した情報システムであって、ソフトウェアだけではない」と考えたことが理由である。

この情報システムの企画からソフトウェアの設計までの間、つまりソフトウェア開発の上流工程で実際に行われる作業は、この原稿に書かれているとおりではないかもしれない。例えば静的モデル（実体関連図、クラス図など、データ構造に関わるモデル）は、ここでは設計作業の 1 つの結果として作成する形にしてある。しかし現実には、ごく基本的なものでも良いから要件定義書と同時にソフトウェアベンダーに提示することが必要かもしれない。

同じようなことが、企画と要件定義の間にもある。例えばビジネスモデルの作成はこの原稿では企画作業の一部として述べるが、要件定義作業の一部であってもかまわない。つまり、どのプロジェクトのフェーズで何の作業を行うかは、それぞれの組織が必要に応じて決めれば良い、ということである。ただ、企画作業が始まる前には決定されていることはまだ何もなく、設計作業が終わった段階ではプログラム開発が始められる状態でなければならない。しかしこの間の作業は、どこで何の作業を行うかを状況に応じて決めれば良い。

なお、第 10 部と第 11 部で述べることは、ここで述べる「企画作業」の結果「開発する」と決裁された場合に行われる作業である。ここで「購入する」とされた場合には、第 16 部（ソフトウェア等の購入）で述べる作業が行われることになる。

前置きはこの程度にして、以下で情報システムの企画についての議論を始める。

